

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人「ゼノ」少年牧場「ゼノ」こぼと園			
○保護者評価実施期間	2025年10月24日		～	2025年12月3日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	163	(回答者数)	146
○従業者評価実施期間	2025年10月24日		～	2025年11月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数)	32
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月30日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・発達部門・難聴部門を併設しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・月齢時期からのきこえの検査や療育、低年齢期からの発達検査などを実施し、早期からの支援に取り組んでいます。 ・研修やケース検討などを通して、職員全体で、発達やきこえについての情報共有を図っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早期からの相談や療育に対応できるよう、赤ちゃん教室など、幅広く相談を受け入れる態勢を整えています。 ・今後も多様なニーズに応えられるよう、職員全体で研修や検討などの機会を取り入れていきます。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・こんな子どもに育てたいという願いをもって、療育に取り組んでいます。 「人がだいすき！ 自分がだいすき！ 遊ぶのだいすき！ お話だいすき！」 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達や興味関心に合わせて、遊びや活動を工夫して取り組んでいます。 ・子どもたちと笑いあい、子どもらしく感情を出して関わり合い、豊かな自然の中で、のびのびと遊ぶことを大切にしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達への見方や必要な支援について検討するために、職員研修にも力を入れています。 ・研修ではグループワークや報告を多く用いて、職員一人一人がより深く学べる方法を取り入れるようにしています。 ・今後も、様々な機会を通して、お互いに高め合う職員集団作りに努めていきます。
3	・親子通園を通しての取り組みを行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の活動の中で、親子で一緒に遊び、かかわり合うことを大切にしています。 ・療育後には職員と保護者懇談を行い、その日の活動を振り返ったり日頃の子育ての話をしながら、子どもの見方や関わり方について、一緒に考えていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・療育場面で、保護者の方と一緒に活動を進められるように、活動内容や方法を工夫していきます。 ・保護者の方の思いを共感的に受け止め、一緒に対応策を考えていけるよう、職員間で情報共有をしながら、安心できる支援を心がけていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・複雑な建物構造と老朽化により、子どもたちにとって見通しがもちにくくわかりにくい環境になっている。死角が生じやすい。	<ul style="list-style-type: none"> ・難聴幼児通園施設の設置基準でスタートし、定員や制度の変更に伴い、増築や改築をかかえているため、複雑な構造になっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の移転整備を計画しています。 ・子どもや保護者の皆様に安心して通園し、安全に過ごしてもらうために、日々職員体制を確認し、必要な人員配置を整えるようにしています。 ・環境についても、危険箇所があれば速やかに対処し、安心安全に活動できるよう努めています。
2	・安全計画や事故防止マニュアル、緊急対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を作成しているが、保護者への周知が十分とは言えない。	<ul style="list-style-type: none"> ・火災を想定した避難訓練は年間計画を立て、定期的実施し、今年度は地震を想定した訓練も行いました。 ・不審者対応の訓練が実施できていません。 ・曜日ごとに通園児が異なるため、マニュアルを全員に周知することに工夫が必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルの周知ができるよう、所定の位置に設置しています。今後、より分かりやすくするために、マニュアルの記載内容の改定を検討します。 ・契約時や入園説明会などで説明するなど、説明の時間を確実にとるように計画します。 ・保護者への周知のために、メール送信ツールの活用などを進めます。
3	・地域の中での交流などの機会を作ることができていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・以前は夏祭りや法人運動会などで、地域の方と交流する機会がありました。しかしコロナ以降、大きな行事や地域に開かれた行事の開催が困難となり、地域交流が実施できていません。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体行事も以前の形態に戻りつつあるため、少しずつ地域交流を含む取り組みについても検討していきます。 ・新園舎の設計においては、地域交流活動も視野に入れて、計画を進めます。

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 社会福祉法人「ゼノ」少年牧場
「ゼノ」こぼと園

公表日 2026年 3月 1日

利用児童数 163

回収数 146

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	124	18	3	1	<p>○良い点 園内で虫取りなど、自然に触れ合う経験ができる。園庭が広く、自由にのびのびと遊べる。外遊びは十分に満足できる環境がある。 活動スペースは「ちょうどいい」と感じる人が多い。 子どもだけなら活動広場は十分に広さがある。 親子通園でも部屋の圧迫感がなく、十分な活動スペースが取れている。 少人数制で、クラスごとに教室があるため、スペースが確保されている。 こぼと園は遊びやすい環境が用意されており、遊戯室や園庭もあり十分な活動スペースがある。 自由遊びが主で、園内全体が遊び場になっている。 第2教室を活用することで、子ども同士のトラブルやケガが減った。</p> <p>○課題・気になる点 雨の日などは活動スペースが限られ、足りないと感じることがある。 人数が多い日の室内遊びは窮屈に感じることがある（同じ意見が複数あり）。 親子で活動する場合、広場やスペースが狭く感じることがある。 活発な子どもが多いため、ゆったり遊べるスペースが少ない。 第2教室の園庭は狭く、乗り物遊びが難しい。思いきり発散しづらい時がある。 園庭で年長児と2歳児と一緒に乗り物に乗ると、安全面が心配。 単独グループの日の活動の様子が分かりづらい（関わりが少なくなっただかも）。 活動内容によっては手狭に感じる時がある。 狭さで大きく困ることはないが「十分」とは言えない。 落ち着かない子、大きな声で発散する子など、空間の確保や環境調整が難しいと感じることがある。 騒がしい空間が苦手な子にとっては、落ち着かないと感じることがある。</p>	<p>○基準以上の活動スペースは確保されています。 異年齢が集う時には、時間や空間の設定を調整し、お互いが安全に遊べるようにしていきます。 室内活動時には、活動の内容に合わせて見通しをもって活動できるよう、部屋の使い方を工夫します。また、室内でじっくりと遊べるような活動設定の工夫も引き続き取り組んでいきます。</p> <p>○4・5歳児の単独通園については、今年が初年度となりますので、職員間で今年度の取り組みを振り返り、課題と成果を確認しながら、次年度により充実した取り組みが出来るように検討します。</p> <p>○現在、よりよい保育空間の実現に向けて園舎移転の動きを進めているところですので、保護者の皆様にもご理解ご協力をよろしく願っています。</p>
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	102	32	8	4	<p>○良い点 手厚く、きめ細やかに優しく対応してもらえるのでありがたい。 よく声をかけてくれ、安心して療育に臨めている。 グループ8人に対して3人の先生がいらしゃり、活動時間にどの先生からも必ず一回は声がけをされているので、子ども1人あたりの先生の人数はちょうどいいと思う。</p> <p>○課題・気になる点 出席人数や活動内容によっては、先生の人数が足りなく感じる日もある。 単独通園時は先生が3人体制だが、とても大変そう。 先生が2人になる日があり、別行動する子がいる場合は人数が少なく感じる。 保護者だけの集まりの時なども、先生は3人体制してほしい。 単独通園の時に、先生の手が足りなく感じることがある。 色んな特徴の子がいるため、もう1人先生がいた方が良いのではと感じる。 比較的手がかりにくい子に対して、手が届きにくくなることが多い。 一対一で見てほしい時に、先生が足りないと感じる場面がある。 移動時など、先生が大変そうに感じる場面がある。</p>	<p>○職員配置は、基準を上回っています。しかし、難聴・発達・相談など部門も療育形態も様々であるため、安全で質の高い支援を行うには、職員が基準以上に必要な状態です。子どもたちや保護者の皆様が安心して過ごせるよう、必要に応じて、引き続き人材の確保を行い、職員体制、保育体制づくりに努めます。</p> <p>○親子通園の中で保護者懇談を大切にしており、懇談時には必要な職員配置を確認して保育体制をとるようにしています。今後も、保護者の皆様安心して活動や懇談に参加できるように、今一度職員体制を確認し、できるだけ余裕を持った配置ができるように努めます。</p>
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	106	26	3	11	<p>○良い点 教室や環境は分かりやすく構造化されていると感じる。 子どもが理解しやすい環境になっている。 必要に応じて布団やソファマットなどが用意され、安全面が配慮されている。 グループ活動ではお絵描きや滑り台など、楽しく活動できている。 特に気になる点はなく、必要な用意や配慮はされていると感じる人もいます。</p> <p>○課題・気になる点 教室に到着しても何も用意されていないことがある。 施設や設備、園舎の老朽化が気になり、耐震性が不安。 施設間の移動が迷路のようで初めは戸惑いやすい。 汽車の部屋のトイレのドアが開閉しにくく、子どもが使えない。 子どもがまだ小さく、環境が理解できていないことがある。 「そろそろお片付けだよ」だけでは行動の切り替えが難しい子がいる。 活動の流れや時間が分かりづらいので、黒板などに明記してほしい。 事前に遊んで良い時間や予定を見える化してほしい。</p>	<p>○建物基準などは基準を十分満たしていますが、築47年経ち老朽化していること、また難聴幼児通園施設の基準で開所し、定員や制度の変更に伴い増築、改築を重ねているため複雑な建物構造になっています。</p> <p>○子どもたちにとって見通しを持ちやすくなるよう、活動の場所や内容の伝え方を工夫していきます。</p> <p>○危険が想定される場面や場所、子どもの行動は、定期的に職員全体で確認し改善と対応に努めています。また、故障箇所は速やかに修繕するように努めています。活動の中で危険や不安を感じることがあれば、引き続き速急にご意見ください。</p>
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	98	40	6	2	<p>○良い点 設備や建物は古いが、きちんと清掃されており、清潔に保たれていると感じる。 不快な臭いは特になく、衛生管理はされていると思う。 建物や部屋の構造は子どもたちにとって遊び心をくすぐるものであり、活動に合わせた環境になっている。 自然が豊かである。</p> <p>○課題・気になる点 施設・建物・設備の老朽化・年季の古さや部屋によっては暗い雰囲気になる。 トイレのドアが開閉しにくい、もしくは開けにくいなど使いづらく、雰囲気も子どもが利用しにくいことがある。 トイレの匂いが気になる。 今のクラスのトイレやおもちゃの清潔さに不安がある（清潔とは思えない時がある）。 蜂の巣ができていたり、蜂に刺されたこともあり、自然環境への安全管理・対策が必要だと感じる。</p>	<p>○築47年経ち、老朽化が目立つ建物ですが、掃除や危険個所の把握修繕を行い、極力清潔で安全な環境づくりができるように努めます。</p> <p>○蜂害につきましても、大変申し訳ありませんでした。今後、安心安全に通園していただけるよう、今一度園内環境を見直し、生き物なども含めて危険個所がないか、点検対応を行います。</p>

適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	124	18	2	2	<p>○良い点 子どもの気持ちや的確にくみ取って、子どもに寄り添った支援や活動をしている。 子どもの「好き」や気持ちを優先して向き合ってくれる先生や友達がいる。 丁寧な療育や支援によって、子どもが次の活動を楽しみに登園できている。 子どもの自主性を高める教育ができています。 ひとりひとりに合わせた支援プログラムを組み、成長を細かく配慮して応援してもらっている。 活動や先生の関わり方を通して親自身も勉強になる。 子ども達に十分合わせた活動や支援が行われていると感じる。 こぼと園に通うことで、難聴や福祉に関する情報を得たり、同じ環境の家庭と繋がることができた。</p> <p>○課題・気になる点 先生の対応や専門性にバラつきがある。 専門性を感じる先生とそうでない先生がいる。 対人関係トラブルや困りごとがある時に、より専門的なアドバイスや対応をしてほしい。 個人的な相談機会が少なく感じる。 先生が2人体制の時は支援が十分ではないように感じる。 言語聴覚士など専門資格のある先生がいるが、その資格ならではの支援が十分に活かされていないと思うことがある。 活動や支援に専門性がどのくらいあるかは分かりづらい。 知らない人が多い環境で初めは不安を感じることもある。 まだ通い始めて数回なので十分に評価できない。</p>	<p>○「ゼノ」こぼと園では、お父さんと保護者の方に一緒に通ってきていただき、障がいや発達の状態に合わせて、集団療育と個別療育を行います。楽しい遊びや体験を通して発達の土台の力を育て、意欲的で安定した生活が送れるように、「児童発達支援ガイドライン」に沿って次の内容で取り組んでいます。</p> <p><発達支援> 難聴のお子さんに対しては、聴力状態の把握や補聴器・人工内耳の装着・調整・聴覚活用をすすめ、また全てのお子さんに対して、人と関わる力、経験や気持ちに根ざしたイメージやこぼと・コミュニケーションの力を育てるよう取り組んでいます。</p>
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	127	12	0	7	<p>わかりやすく良いと思います。 園児と準園児と内容が違うので、なんとも言えません。</p>	<p><家族支援> 親子通園、保護者懇談会などを通して、我が子を理解し、子育てに元氣と見通しが持てるように支援を行っています。</p> <p><地域支援> 保育所・幼稚園やこども園などと併行通園されている方は、園との連携を通して、安定した生活が送れるように支援しています。</p>
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	130	12	1	3	<p>○良い点 子供に合わせた目標計画が明確になっている。</p> <p>○課題・気になる点 先生が子供への対応（特に支援がより必要な子への対応など）で忙しく、十分に話す機会が少ないと感じる。 発達検査で前回から1年以上経過しているが、まだ実施されていない。 半期の振り返りのフィードバックが短時間で終わり、不十分に感じる。 保護者が個別支援計画の内容を十分に把握できていない。 支援者（先生）から見た子どもの様子について、もう少し深い話を聞きたいと感じることがある。</p>	<p><家族支援> 親子通園、保護者懇談会などを通して、我が子を理解し、子育てに元氣と見通しが持てるように支援を行っています。</p> <p><地域支援> 保育所・幼稚園やこども園などと併行通園されている方は、園との連携を通して、安定した生活が送れるように支援しています。</p> <p>これらガイドラインに沿った内容で児童発達支援計画を立てていますが、一人ひとりへのより丁寧な説明を心掛けていくよう努めます。 また、支援計画やモニタリングの確認については、保護者の方との理解や納得を深めるために十分時間が取れるよう、計画的にすすめていきます。</p>
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	126	13	1	6	<p>○良い点 目標・計画の設定は適切である。 具体的だと思う。</p> <p>○課題・気になる点 まだ支援計画やフィードバックをもらっていないため、判断できない。 設定された目標や計画の具体的な支援内容が分かりにくい（具体性が伝わりにくい）。 半期の振り返りフィードバックが短時間で終わり、不十分に感じる。 保護者に個別支援計画の内容が十分に伝わっていない。 支援者の視点で子どもの様子をもっと深く話してほしい。</p>	<p>○こぼと園には様々な職種の職員がいますので、それぞれの専門性や良さが療育や保護者の方へ支援の中で発揮できるよう、今後も職員研修に努めています。 また、保護者の方からも、不安や要望などを遠慮なく率直にお伝えいただき、一緒に解決策を考えていけるようになればと思います。</p>
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	126	13	1	6	<p>行われています。</p>	<p>○発達検査は、進路検討など、その時々必要性に合わせて取り上げています。実施の希望などがありましたら、ぜひ担当者までご相談ください。</p>
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	121	14	4	7	<p>○良い点 子供の成長度合いに合わせて工夫されています。 活動の時間調整などは十分対応してもらっている。</p> <p>○課題・気になる点 他のお子さんが、場所になかなか慣れない子が多いので仕方ないですが、うちの子はあまりそういうことがないので、同じ内容の活動が続くとマンネリ化を感じます。</p>	<p>○各グループの活動のねらいや取り組みに応じて、他機関との交流を取り入れています。今後も、グループの状況に応じて、必要であれば取り入れていこうと思います。</p>
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	84	19	17	26	<p>他との交流は経験していないが、地域の川や公園の利用をしている 地元の自治体のイベント事など家族で参加しています。 保育所などへ通っていないため分からない。 今の所は経験ない。</p>	<p>○運営規定については、入園説明会で伝えてあります。 継続の方には、入園式、あるいはそれに代わる新年度ガイダンスでご説明しております。今後も、引き続き丁寧な説明を心がけていきます。</p>
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	140	3	1	2	<p>他の施設も見学に行ったが、ずば抜けて丁寧に説明してもらえた。 問題ありません。</p>	<p>○説明を受けています。</p> <p>○今後は、十分に時間を取り、より丁寧に説明ができるよう心がけていきます。</p>
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	138	5	0	3	<p>説明を受けています。</p>	<p>○通園日ごとの保護者懇談会の他、年間を通して保護者教室、学習会、家族参観日などを実施しています。</p> <p>○土曜日に行う保護者教室は、ご家庭の状況などもあり全員参加は難しいですが、できるだけ参加しやすくなるよう、保育体制なども整えながら計画実施をしています。</p> <p>○その他、園外の研修会などについても、その都度保護者の皆様にご案内し、情報提供しています。</p>
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	131	8	0	7	<p>○良い点 親子通園の時の話し合いや日常の行動記録等で、日々コミュニケーションをとっています。 親が参加する時間帯に子どもをもてくれているので、助かります。</p> <p>○課題・気になる点 もう少し強制力があるものにしてほしい</p>	<p>○親子通園を通して、親子で一緒に活動します。また、活動終了後には保護者懇談の時間を必ず持ち、活動の意味やこどもの様子について話し合いをしています。</p> <p>○共に考えあったり、共有することを通して、保護者が、我が子を理解し子育てに元氣と見通しを持って仲間と共に歩んでいけるように支援したいと考えています。</p> <p>○保護者のニーズにお応えできるよう、必要に応じて個別の時間も取りながら、子どもの共通理解に努めていきたいと思えます。</p>
15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	129	13	2	2	<p>○良い点 言えば聞いてもらえる（相談すれば対応してもらえる）。 毎日行動記録でやり取りができています。 先生方が一人ひとりの子どもをよく見ていると感じる。 こぼと会役員会に参加している（交流や情報共有の機会がある）。</p> <p>○課題・気になる点 先生によって対応にバラつきがあると感じる。 毎日利用していないため、詳細が分からない。 先生と一対一になることが少ないので、十分なコミュニケーションがとれているか分からない。 先生が忙しく、対応ややり取りが十分ではないと感じる。</p>	<p>○親子通園を通して、親子で一緒に活動します。また、活動終了後には保護者懇談の時間を必ず持ち、活動の意味やこどもの様子について話し合いをしています。</p> <p>○共に考えあったり、共有することを通して、保護者が、我が子を理解し子育てに元氣と見通しを持って仲間と共に歩んでいけるように支援したいと考えています。</p> <p>○保護者のニーズにお応えできるよう、必要に応じて個別の時間も取りながら、子どもの共通理解に努めていきたいと思えます。</p>	

保護者への説明等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	134	8	2	2	<p>○良い点 週一回の親子通園で懇談会を実施してもらっている。 毎月のように懇談の時間を取ってもらえて、ありがたいと感じている。 困り事も電話で相談しやすい。 保護者の話をよく聞いてくれ、否定せず受け止めてもらえる。 毎回保護者全員が集まる座談会で、子どもの様子を話す機会がある。</p> <p>○課題・気になる点 個別に時間をとってもらいたい、一対一の面談が少ないと感じる。 家でのごとまで相談する機会がない。 個別療育がなくなり、相談できる時間が減って残念に感じている。 他の保護者がいる前では話にくい内容もあるため、定期的に個別面談の機会があるとよいと感じる。 来年度のことや発達検査などについて、年長さん優先の雰囲気があり、気軽に質問や相談がしづらいつ感じている。 保護者の話をよく聞いてくれるが、具体的な対策案や解決案がなかなか出てこないように感じる。</p>	<p>○毎回の保護者懇談の他、連絡帳や、必要に応じて個別の懇談や電話なども対応しています。</p> <p>○個別療育がなくなったことで、話しづらくなったと感じられるところもあるかと思えます。 個別での保護者懇談については、必ず実施するよう年間計画を立てています。また、必要に応じて随時対応できるようにしておりますので、担当まで遠慮なく希望をお伝えください。</p> <p>○研修などを通して職員専門性を高め、保護者の皆様の疑問や悩みにお答えできるよう努めています。</p>
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	139	5	1	1	<p>○良い点 コミュニケーションをとり共感していただいています。 子どもの気持ちに対して共感してくれているからこそ、子どもが先生を好きなことを感じられる。</p> <p>○課題・気になる点 積極的に子供や保護者と関わってくれる方と、そうで無がいるように感じる。</p>	<p>○職員による対応の差が生じないよう、職員間でも連携や研修を行いながら、十分な支援ができるように努めます。</p>
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	94	23	5	24	<p>○良い点 保育や行事で卒園児も受け入れてくれるのが嬉しい。 成長を喜び合える環境があり、安心できる。 保護者向けのイベントや機会はある。 適切な具体的な助言があるとより良いと感じている。</p> <p>○課題・気になる点 きょうだい見向けや、きょうだいで参加できるイベントが少ない、またはほほえないように感じる(もう少し増やしてほしい)。 開催はされているが、なかなか参加できていない。 兄弟については体験したことがなく、参加したこともないためよくわからない。 長期休みの際のきょうだい児の居場所の確保が難しい。 同じような子どもを持つ、子どもより〜二歳上の保護者から具体的な助言が欲しいが、機会を作るのが難しいと思われる。 きょうだい向けイベントや活動について情報がわかりづらい/対象が少ない。</p>	<p>○こぼと園の保護者会、広島県東部地域の通園施設保護者会(療育を守る親の会)など、グループや園を超えたつながりがあります。</p> <p>○全体行事や学習会、家族参観日などでグループを超えた交流を計画します。</p> <p>○きょうだい児に向けては、園の療育の意図や職員体制などの点から、夏祭りなどの限られた行事となっています。実施可能性については、今後の検討課題としていきたいと思えます。</p>
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	131	6	0	9	<p>○良い点 迅速に対応していただいている。相談の申し入れには素早く対応してもらえる。 困り事や相談したことは先生も把握し、声を掛けてくれる。 体制が整備され、柔軟に対応してもらえることで、半年以上通うことができている。 働き方改革が進んで、先生の負担が軽くなることを期待している。</p> <p>○課題・気になる点 個別面談がなくなったことで、相談しづらくなっていないか心配。 こちらから先生に個人的なことを伝えるタイミングや方法が分からず、相談しにくい状況がある。 療育中は時間や活動が限られており、個人的なことで先生の時間を割くのが申し訳なく感じる。 電話での相談も、短い時間や子どもがいる時間では難しい。 登園の間隔が短かった時は個別に伝えやすかったが、今は「もういいかな」と軽い悩みを飲み込んでしまっている。 大きな悩みまでも抱え込む親がないことを願っている(悩みを話しづらい環境への懸念)。 普段の生活で悩みがあると、療育の日まで相談を待つことがあり、適宜相談できるのか分からない。 希望者に対してはZoom面談などを活用した新しい相談方法があると良い。</p>	<p>○今年度から発達部門の個別療育がなくなり、個別に相談できる機会が少なくなった感じられる保護者の方も多いかと思えます。 今年度は、個別療育に変わるものとして、年間を通して個別での保護者懇談の時間を設けるようにし、更にご希望の方には、電話や個別面談なども随時お答えできるようにしています。 相談をしたい、話をしたいと思われた時には、率直にお伝えいただければと思います。 また、職員も随時柔軟に相談対応ができるよう、余裕を持った体制がとれるよう職員配置を工夫します。</p> <p>○連絡帳での意見交換、情報共有は従来通り引き続き行っておりますので、こちらもぜひご活用ください。</p>
20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	132	13	0	1	<p>特に電話連絡や受付をしっかりとしてくれているおかげで、困ったことが生じない。 親子間のアドバイスは場面にに応じてしてください 問題ありません。</p>	<p>○親子通園時には直接お話しするようにしています。その他、必要に応じて電話や連絡帳での連携、相談対応も行っています。 今後も必要な時に、随時連絡をとり情報共有できるよう努めます。</p>	
21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	126	21	1	18	<p>○良い点 問題ありません。</p> <p>○課題・気になる点 ホームページが見づらく、活動内容が分かりにくい。 ホームページが分かりにくいため、療育に興味がある人にも内容が伝わりづらい。 予定の連絡がかなり遅い。 月間予定や休みの日を前月の中旬頃までに早めに連絡してほしい(家族の予定が立てやすい)。</p>	<p>○こぼと園だよりにて、定期的にこぼと園の活動などについて情報発信しています。</p> <p>○予定連絡については、保護者の皆様にご迷惑がかかることのないよう、できるだけ早めにお伝えできるように努めます。</p>	
22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	128	8	0	10	<p>問題ありません。</p>	<p>○個人情報の取り扱いについては、入園時にご説明し、同意していただいております。 ○お互いを理解し合うことと、個人情報保護とのバランスをとりながら、保護者支援を行うことに努めています。</p>	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	101	11	0	34	<p>問題ありません。</p>	<p>○防災対策は、毎月の避難訓練と建物の安全管理(火災報知機の点検、消火器の設置、危険箇所の把握と対応など)を行っています。 避難訓練は、全ての子どもが経験できるように、曜日や時間帯を変え計画的に実施しています。津波については、職員は訓練していますが、今後、園児や保護者の方も含めた、訓練を実施していけるよう計画します。</p>
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	93	13	1	39	<p>問題ありません。 今のところ経験ないです。 現在は経験ないです。</p>	<p>○緊急時の連絡は、チェックインシステムにて行っています。</p>
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	122	9	1	14	<p>問題ありません。 今のところ経験ないです。 現在は経験ないです。</p>	<p>○感染対策は、その時々状況や、国および広島県、福山市等の方針を参考にして方法を決めています。 基本的なルールは定期的に見直しながら更新し皆様にお伝えします。それぞれの立場や状況を理解し合いながら、臨機応変に対応していきたいと思えます。何か気になることがありましたら、引き続きご相談ください。</p>
	26	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	104	13	0	29	<p>その場面に会ってない 問題ありません。</p>	

満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	138	0	4	4	<p>○良い点 先生やこぼと園を好きと感じている。 いつものお友達や先生に安心感を持って活動に取り組んでいる。 楽しく通えている。 安心できるように先生が守ってくれる存在として認識している。 安心感を持てるよう配慮してもらっている。</p> <p>○課題・気になる点 苦手な子がいることで不安を感じ、バスに乗れないことや登園を渋ることがある。</p>	
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	133	9	0	4	<p>○良い点 苦手な活動でも、子どもが「やってみてよかった」と思えるような支援をしてもらっている。 先生方や施設の活動を楽しんでいる様子が見られる。 いつもニコニコして通所しており、前向きな気持ちで参加できている。 通所を嫌がる場合でも、その理由は子どもの特性によるもので、園の対応に問題があるわけではなかった。</p> <p>○課題・気になる点 最近、「行きたくない」と通所を渋る様子が続いており悩んでいる。 行きたくないと訴える一方で、実際に行けば楽しんでいるように見えて、親としても理由が分らず困っている。 通所への気持ちや意欲が、その時の気分によって波がある。</p>	<p>○今年度から親子通園の回数と個別療育を減らし、4・5歳児も単独通園を開始しました。そのことで、特に以前からこぼと園に通ってくださっている保護者の方には、従来の療育との違いから、物足りなさやコミュニケーション不足を感じられることもあったかと思えます。 当園としても、時代の流れや社会的なニーズの変化への対応を検討した中で今年度の体制としましたが、移行段階のためまだまだ改善や検討が必要であると考えています。 今年度の皆様からのご意見をもとに、今後の療育の進め方について職員でも十分検討し、今後少しでも良い形でこぼとらしい療育に取り組んでいけるように努めてまいります。</p>
	29	事業所の支援に満足していますか。	123	19	2	2	<p>○良い点 丁寧に関わってもらっている。親身になってくれる支援者がいる。 多くの先生方が関わってくれ、声かけや見守りをしてもらっている。 家ではできない活動や経験を親子で体験できている。 親子ともに支援してもらい、半年以上も通うことができている。交通手段が解決すれば来年度も通いたいと思っている。 困りごとや悩みも相談しやすい環境。 満足している。しっかりと支援して下さる方が多数いる。 (行事やフリースペース) 保護者同士の交流の機会があり、顔見知りの人と会えるのも嬉しい。</p> <p>○課題・気になる点 もう少し個人的に相談する機会がほしい。 親子通園回数が減ったことで、去年楽しかった活動が減ったり、諦めざるを得ないことがある。 親子での全体活動を1日で2個しないといけない日が多くなり、じっくり取り組めない感じがする。 親子通園の機会が減ったことで物足りなさを感じている。物理的距離が心の距離にも関わるのでと心配している。 先生や保護者同士の交流が希薄にならないよう、交流の機会を増やしてほしい。 専門資格(言語聴覚士等)を持っている先生には、専門的な質問の際に、より親身になって答えてほしい。不十分に感じることがある。 親身になってくれる支援者の方もいるが、こどもとの関わり方等を見ると意欲に欠けるように見受けられる方も一部いる。</p>	<p>○この事業所評価にて、保護者の皆様にご理解納得いただいたことは継続し、ご意見をいただいたところは職員間で今後の取り組みをしっかりと検討しながら、園全体の療育の質が向上し、たくさんの方に満足と子育ての楽しさや喜びを感じていただけるよう、今後も職員一同引き続き努力してまいります。</p>

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		社会福祉法人「ゼノ」少年牧場 「ゼノ」こぼと園		公表日	2026年 3月 1日	
チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	25	7	<p>○良い点 部屋の確保がしやすい。 狭い場合でも外での活動を多く取り入れることで、問題なく過ごせていることが多い。</p> <p>○課題・気になる点 使用できる部屋が狭かったり、児童にとって見通しの持ちにくい空間になっているため、使いにくさを感じる。 子どもの動きや年齢に合った部屋の広さの確保が十分でない場合がある。 ケースの入り方によっては部屋が足りなくなることがある。 職員の動きを全体で把握し、協力体制を分かりやすく確認できるようにする必要がある。</p>		
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	26	6	<p>○良い点 職員が協力し合い、子どもだけにならないよう連携して対応している。 保育応援は朝会や状況に応じて確認している。 安全な職員配置ができている部分がある。</p> <p>○課題・気になる点 子どもの状態によっては、より少人数グループや柔軟な職員配置がさらに必要だと感じることがある。 発達の遅れが大きい・状態がしんどい子どもには対応する職員を増やしてほしい。 配置基準は満たしているが、状況によって保育時などは少し危なっかしさを感じることがあり、職員体制がもう少し増えたと良いと思う。 日々の体制整備に苦労がある。</p>	<p>○建物基準などは法令を遵守しているが、築47年経ち老朽化していること、また難聴幼児通園施設の基準でスタートし、定員や制度の変更に伴い増築、改築を重ねているため、複雑な建物構造になっている。 死角もあり、見通しの持ちにくい建物構造なので、安全性に気を付け、できる限り子どもにとって見通しが持ちやすいように手掛かりや働きかけを行い、安心して分かりやすく楽しく活動できる環境づくりに努める。</p>	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10	22	<p>○良い点 子どもの状態に応じて、できるだけ見通しの持ちやすい環境になるよう工夫している。 増築による分かりにくさや制限があるなかでも、職員が努力して環境づくりに取り組んでいる。 混乱防止のため、できるだけ同じ部屋を使うようにしている。 おもちゃや遊具等を片づけやすいようにラベル貼付（写真やイラスト）をするなど、工夫の提案が出ている。</p> <p>○課題・気になる点 二階建ての構造や、増築の結果として空間が分かりにくくなっているため、全体的な構造変更が必要と感じる。 狭い部屋や指導中の部屋など、スペースの制限があり、特に環境に過敏な子どもは活動しづらさを感じやすい。 建物や設備が古く、老朽化が進んでいる。 バリアフリー対応が十分でなく、車イス利用者など移動が難しいケースもある。 死角が多い。 1階の子ども椅子やおもちゃのコーナーが狭い。 書類の保管場所が少ない。 施設整備を進める必要がある。</p>	<p>○部門（難聴・発達・相談）や療育形態（集団療育・個別療育・親子通園・毎日・併行など）、年齢（0歳～就学前）や状態、療育内容などが複雑なので、職員同士事前の打ち合わせをし、訓練室や検査室等の使用を調整している。</p> <p>○職員の配置基準は上回っているが、難聴・発達・相談など、部門も療育形態も様々であるため、安全で質の高い支援を行うには、職員が基準以上に必要である。また、親子通園であり保護者との懇談を大切にしているが、保護者懇談の時間帯に十分な保育体制をとることが引き続き課題である。 職員体制整備・充実のための意見を関係団体の協議の場などに挙げていく必要がある。</p> <p>○危険箇所気づいたらすぐに対応し、清潔で心地よい環境であるよう、保護者の協力も仰ぎながら努力する。 職員間でもお互いに声を掛け合いながら、日常的に環境整備への意識を高めていきたい。</p> <p>○施設の老朽化のため、より良い療育空間の実現に向けて、新園舎整備の計画をすすめている。</p>	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	22	10	<p>○良い点 建物が古い中でも、清潔に保つよう努力している。 毎朝、人が通るところはしっかり掃除している。 乳幼児から年長児までの発達段階や年齢に合わせて、必要な工夫（セラピーマットなど）をしている。 消毒剤などの衛生管理に配慮している。</p> <p>○課題・気になる点 建物の老朽化が著しく、修理が必要な箇所が増えている。修理の範囲や方法を検討する必要がある。 施設や部屋、園庭が発達段階や年齢によって狭いと感じる場合がある。 掃除が行き届いていなかったり、片付けが不十分なことがあるので、もっと徹底する必要がある。 隔々までのふき掃除や片付けの徹底が課題。</p>		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	29	3	<p>○良い点 部屋数や部屋の大きさに関する調整を全体で確認し合い、柔軟に対応している。 子どもの状態に応じて、個別の部屋の使い方も配慮している。</p> <p>○課題・気になる点 必要な大きさの部屋が、必要ときに必ずしも使えるとは限らない。 その日に来る子どもの状態などによって、希望する部屋が使えない場合がある。</p>		

環境・体制整備

業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	27	5	○良い点 会議を活用して情報共有や話し合いを行っている。 指導後に担当同士で話をするよう工夫している。 契約職員（時給）の職員にも幅広く意見を出してもらえよう工夫を考えている。 ○課題・気になる点 話し合う時間が十分に確保できていない現状がある。 個々人の都合によるケースの入れ方があり、病院リハビリ感覚で働いてしまっている部分がある。 会議や情報共有の方法について、より時間や機会を増やす必要がある。	○職員会議等の場で全体の状況把握や意見の集約を図る。 ○引き続き、保護者との共通理解に努めながら、職員全体での共通理解、認識を図り、具体的な業務改善に向けて努力する。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	32	0	話を聞く時間をもうけて、対応している。 保護者会の意見、個別対応時の意見などを全体に伝え、状況を各職員が周知できるようにしている。	○保護者評価、事業所の自己評価に基づき、今後の改善に生かしていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	28	4	○良い点 定期的に少人数でのグループワークを実施し、意見が出しやすい環境作りを工夫している。 部門別の会議では、日々の業務の困りごとや悩みを率直に話し合える機会がある。これによりコミュニケーションや問題解決が進みやすくなっている。 朝会や終礼が、職員が様々な意見や気づきを言える場になっている点は、意見の共有や情報交換の良い機会となっている。 ○課題や気になる点 部門に属していない職員には、意見を出す機会が少なくなる場合があり、情報共有や意見交換の場が不足している可能性がある。 全員が集まる会議では、規模が大きいため、意見を出しにくいと感じる場面がある。これが職員の積極的な発言を妨げている可能性がある。 職員会議が伝達中心になり、意見を交換する場としての機能が減少しているため、以前よりも職員間のコミュニケーションが少なくなっているように感じる。	○内部研修・外部研修などを計画的に行い、職員の学ぶ意欲を高め、職員の専門性や人間性を高めるように努める。 コロナ以降オンライン研修が増えた分、今まで夜間や休日の研修に参加しにくかった職員も含め、色々な職員が参加しやすい良さもある。今後も、必要な研修、今の職員の働き方にあった研修の在り方を検討し、実施していきたい。 ○業務の多忙化によりなかなか話し合いの時間が確保できない状況である。今後、グループ体制や職員体制を見直し、業務の役割分担をしながら時間を作り、ケース検討や療育についての話し合いの機会を十分に確保できるように計画していく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	26	6	話の機会を作っている。 今年度、外部の第3者評価を頂く予定である。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	32	0	身体の発達や療育研修会など、職員全体での研修に位置付けているものもある。 外部研修の場や機会は保障されているが、その後の報告等で職員全体のものにする難しさがある。 時間的には、少ないと感じる。		
	適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	32	0	管理者とのやりとりができています。 作成のための会議、時間を十分にとれていない。	
		12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	32	0	情報を論文等からも得て、実践に繋げています。	
		13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	30	2	複数担当の場合、確認し合う時間が取りにくく、共通の認識になりにくさがある 個別指導だけのケースは、難しい場合がある。	
		14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	29	3	担当間では共有するようにしている	
		15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	29	3	発達検査の実施も含めて子どもの行動や発達をとらえるようにしている。 適応行動の状況は、行動観察や連携先、家庭状況の聴取等により行っており、標準化された質問紙等のツールは使用していない。 わからないことは、意見を求めて行ってる。 確認する時間を取るようにはするが、現実なかなか難しさがある	○「ゼノ」こぼし図では、ガイドラインに沿った支援を次のように行っているが、さらに充実させるように努める。
16		児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	32	0	子どもの状態を把握するために、関係機関との連携を大切にしている。 家族支援、地域支援について情報を十分にもらう機会が必要。	①「発達支援」親子通園で障害や発達の状態に合わせ、集団療育と個別療育を行う。楽しい遊びや体験を通して発達の土台の力を育て、意欲的で安定した生活が送れるように取り組んでいる。 難聴児に対しては、聴力状態の把握や補聴器・人工内耳の装着・調整・聴覚活用をすすめる、人と関わる力、経験や気持ちに根ざしたイメージやことば・コミュニケーションの力が育つように取り組んでいる。	
17		活動プログラムの立案をチームで行っているか。	28	4	グループ指導では行っているが、その日のリーダー任せになりやすい傾向がある 各担当個人の考えで作成されがち。 個別指導では難しい。 打ち合わせや準備の時間を効率的に計画することが必要	②「家族支援」親子通園、保護者懇談会などを通して、我が子を理解し子育てに元氣と見通しが持てるように支援している。	
18		活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	29	3	保護者の話を聞いて、子どもの好きなことをつかみながら進めています。 子どもの見方、発達の視点などの専門的情報も共有して工夫している。 固定化して習慣化することもある。 これまでのやり方にとらわれてしまい、何のためにするのか十分話し合わないことがあるようにも思える	③「地域支援・保育所等訪問支援」関係機関との連携を行う。特に保育所や幼稚園・子ども園などと併行通園している場合は、園との連携を通して、安定した生活が送れるように支援している。	
19		子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	31	1	保護者の状況も踏まえて、段取りしています。	○子どもに合わせた適切な支援を行うために努力をしているが、部門の増加、ニーズの多様化による職員の役割の多重化、複雑化などのため、職員は手いっぱい状況である。	
20		支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	29	3	チャットも利用して行っている。 指導の前に流れを確認したり、子どもの状態を話している 毎回ではないが、できる時は行っている。時間がとれないこともある	様々な職種・立場の職員が、全体で業務改善に取り組み、よりよい支援に結びつける努力が必要である。	

	21	支援終了後は、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか。	19	13	○良い点 話し合いや振り返りの時間を工夫する努力をしている。 必要な場面では意識的に話し合いを行っている。 振り返りや意見交換をできる範囲で努めている。 ○課題や気になる点 日々の業務や記録が重なり、まとまった話し合いの時間が取りにくい。 支援終了後や業務が忙しい時には、振り返りや意見交換が十分にできないことがある。 一人担当の場合、他者と共有や振り返りが難しく、連携が不足しがち。	○活動プログラムや活動内容は、子どもの状態に合わせて適切に行われていると思われる。しかし、長年の経験の中でマンネリ化する傾向もあるため、改めて子どもの発達と必要な取り組みについて適切に評価し、活動の意図やねらいを明確にすることに努めていきたい。そのために、引き続き、研修やケース検討等を重ね、療育の質を向上に取り組んでいく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	32	0	忘れてはいけないと思うことは、必ず記録に残しています。 ケアカルテになり、初めはやり方が難しかったが、少しずつ慣れると早く記録ができるようになり良さがある。 ケアカルテの導入により、最初は混乱が生じたが、職員間で確認し合うことを心掛けている その日の話をしていると、時間がなくなり記録が取れなくなる時がある 担当者によっては、記録が長すぎてポイントを絞っていないことがある	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	32	0	形式が決まっているので、合わせています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	32	0	Web上での確認もありますが、できるだけ、直接会っての話し合いを行っています。	○子どもの状態に応じて、特に配慮を要する子どもとその家族に対して、必要に応じて関係機関（母子保健、ネウボラ課、障がい福祉課、保育課、学びづくり課、基幹相談支援センター、こども発達支援センター、子ども家庭センターなど）と連携し支援を行い、子どものすこやかな育ちを支えることができるように努める。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	31	1	直接、電話、文書等状況に合わせて対応しています。 難聴部門においては、医療との連携の難しさを感じている。	○医療的ケア児に関しての関係機関との連携を強くするよう努め、主治医や協力医療機関との連絡体制を整備する。 医療的ケアが必要でない子どもについても、状況に応じて医療機関や他の関係機関との連携、情報共有に努める。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	32	0	訪問連携、文書確認、来園連携を行っています。	○併行通園している保育所、幼稚園、こども園などの連携支援を充実させる。そのために、日常的な電話や連絡帳での連携に加えて、保育所等訪問支援事業を行うこと、療育懇談会（年1回、グループごと、公開療育と懇談会）や研修会（療育研修会・聴覚障害研修会など）を開催することなどを通して、充実を図る。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	31	1	入学前に指導の様子を見てもらったり、様子を伝えるなどの連携を行っています。 課題の大きな子についてはできるだけ連携を持つようになっているが、どうしても就学先で困難が目立ってからが多くなり、不十分な時もある。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	31	1	ケースを通じて連携を行っています。	○移行支援、他機関との交流や情報共有、研修などについては、継続して行う。 ○福山聴覚障害教育研究協議会など、各種協議会への参加を通して、各関係機関との情報共有、連携を行い、より良い地域づくりを目指す。 ※利用されている園児数が多いので、計画性をもって行うように努める。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	32	0	できるだけ多くの職員が学べるように、外部講師に来てもらって、一緒に研修を行っています。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	28	4	担当を決めて参加しています。	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	22	10	併行通園しているため、日頃から連携交流している。 特別支援学校と交流する場を設けている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	32	0	療育後に毎回保護者指導の時間をとって、保護者との話をしている。 必要に応じて後日電話などでも話をし、保護者と一緒に子どもについて考える機会を持つようになっている。 時間が短いので、時間のやりくりが必要になる。 個別指導がなくなったり単独通園になったため、以前よりも保護者との接点が少ない。なかなかつながりや関係作りが難しくなっている	○保護者への支援は、保護者との信頼関係を築くことを大切にしながら、親子通園、保護者懇談会、連絡帳の交換などの日常的な支援と、年数回の保護者教室や学習会などの学びの場を設けて行う。 そのために、職員研修やケース検討を行い、より質の高い支援を行えるように努める。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	32	0	日々の指導に母のみならず、父や祖父母にも、参加してもらっています。 年に数回、保護者教室を開き、家族を含めて学べる場を提供している。 日曜日に家族参観日を開き、母親以外の家族の方にも療育への参加をよびかけている。	○発達部門の個別療育がなくなったことで、保護者に「個別の話ができにくい」という不安を抱かせてしまった。年間を通して個別懇談を計画的に実施し、更に必要に応じて随時懇談を設け、保護者の不安の解消に努めたい。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	31	1	変更のある場合は、その都度話しています。 個別指導がなくなり、時間が取れず、丁寧な説明がしにくくなっている		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	32	0	日頃から保護者懇談などを通して思いを確認するようになっている。 発達についての理解を深めるために、必要に応じて受診の意味を伝えて、勤めています。	○年度初めのガイダンスや入園前の説明会で、運営規定や利用者負担について管理職から説明している。現場の職員にも運営規定や利用者負担について説明する機会を設ける。	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	32	0	日々の指導に合わせた話を理解に繋げています。	○契約や児童発達支援計画などの説明や同意に関して、児童発達支援ガイドラインで使われていることばを用いながら説明するように努める。	
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	32	0	日々の指導の中で、情報を得て、対応しています。		

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	31	1	こぼと会や療育を守る親の会など、園全体での位置付けが出来ています。家族参観を行い、通園していない家族の方にもシステムを理解してもらうような取り組みをしている。兄弟同士の支援は行っていない。兄弟児には保護者教室や夏祭りなどの行事の機会に対応している。	○保護者とは、直接対話、電話、連絡帳などの方法で意思疎通や情報伝達を図っている。緊急連絡は、メール配信サービス「チェックインシステム」のメールで一斉送信している。保護者が閲覧したかどうか分かるシステムになっており、連絡漏れのないように努めている。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	32	0	園の中に体制を作っています。担当だけでなく、園長にも話をしてもらったり、迅速に動くようにはしている	○こぼと会（こぼと園保護者会）、療育を守る親の会などへの協力を呼びかけ、園内外での保護者間のつながり作りを大切にしている。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	30	2	親子通園なので必要な情報は対面で伝え、メール配信ツールなどを使用し補足している。定期的なこぼと園だより、各グループ予定を発行しています。HPやSNSの発信は十分ではない。	○保護者の意見をしっかり受け止め、あわせて今回の事業所評価・自己評価をもとに、園のあり方や支援のあり方を見直し、引き続きより良いものになるように努めていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	32	0	メールの場合は、名前をフル表記しない、机上にケースファイルを置かない、置かざるを得ない場合はケース名が見えないようにするなどの努力をしています。職員によって意識の差があるので、全体での研修が必要と思われる	○日常的な保護者への説明や相談については、保護者が相談しやすくなるように、職員との信頼関係を深め、あたたかく専門性を持った支援を行っているように努める。そのために職員研修など、人材育成にも取り組む。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	32	0	難聴児や聴覚障害のある保護者、外国語を母国語とする保護者には、必要に応じて手話や筆談などでも対応している。保護者の状況を踏まえて、直接連絡がとりにくい場合は、併行先の園の先生とも連携しながら進めるなどの工夫をしています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	21	11	コロナ以来狭まっていますが、状況をみながら考えていく必要があると思います。行事があることへの周知は行っているが、交流する機会は少ないように感じる。地域の民生委員さんとの交流が必要と考える	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	32	0	避難訓練等実施している 訓練は実施しているが、十分ではないところもある	○想定される緊急時等のマニュアルを漏れがないように策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施するよう努める。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	32	0	訓練内容が深まりにくいと思います。	○毎月の避難訓練と建物の安全管理は行っている。毎日通園ではない子どもが多い中、全ての子どもが訓練を経験できるよう、曜日や時間帯を変えて計画的に訓練を実施する。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	29	3	入園する際に職員全体への周知を行っている。嘔吐の対応については、全員が十分把握できているとは言えない。	○BCP訓練などを通して、職員が災害時の状況を想定した訓練を実施している。また今年度は火災に加えて地震を想定した訓練も行った。今後は、子どもや保護者も含めた洪水、津波を想定した訓練の実施を計画する。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	32	0	全職員が対応できるよう、会議で確認しています。担当だけでなく、栄養士なども含め職員間に伝えるようにしているアレルギーのある子は机を他児と分けている。	○緊急時の気象情報や避難情報の把握方法を確認し、その時の対応（保護者との連絡や関係機関との連携方法）について、改めて確認を行う。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	31	1	日々の出来事で必要なことを伝える形をとっています。	○虐待や身体拘束に関する研修を全職員で行い、グループワークなども通して自身の対応につなげて考えるようにする。また身体拘束については、日々確認し、発生時には対応について検討する。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	32	0	日々の指導の中で、子どもに合わせて伝えていきます。	○権利擁護に関する研修に参加し、職員全体に周知している。今後も、年間計画的に虐待や権利擁護、身体拘束等に関する研修に参加し、人権意識や適切な関わりを職員全体で確認し共有する。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	32	0	都度、確認しています。終礼などでその日のことを確認したりしている	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	32	0	全職員への研修やグループワークを計画的に実施して、虐待防止に努めている。子どもの暴言等への対応は、確認中です。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	32	0	対応については、その都度保護者に説明して納得してもらうようにしています。		